



愛だけしかみえない。

罪物語

つみものがたり

クラシーナ・ドウゴウェツカ◆イエシ・ジェルニク◆オルキェルト・ウカシェウィチ
原作ステファン・ジェロムスキ◆監督・脚本ヴァレリアン・ホロフチク
撮影スィグムント・サモシウク◆音楽フェリクス・メンデルスゾーン・バルトルティ
演奏バイオリン・コンツェルト(ホ短調)ーコンスタンティ・アシシェイ・クルカ◆オーケストラ指揮ーイエシ・カトロヴィチ
美術テレサ・バルスカ◆製作ユニット"TOR"
DZIEJE GRZECHU◆カラー作品◆配給・東映ユニバースフィルム株 TUF



19世紀末に咲いた炎の恋 哀しいまでに美しい一人の女の運命を描いた 珠玉の文芸ロマン。

道徳の鎖を断ち切って、彼女は地の果てまでも愛を追い続けた。

罪物語

DZIEJE GRZECU

愛するは罪——しかし、
なぜ、ひたすら愛することが罪となり
それゆえに、この世から
制裁を受けねばならないのだろう。

『アデルの恋の物語』で恋の狂気に落ちて男を追うアデル、
『テス』で恋の成就の瞬間、撃たれて果てるテス、『フ
ランス軍中尉の女』で娼婦の烙印と恋泥棒の汚名を着たサ
ラ……彼女たちは皆、いちずな愛を男に捧げたがために、
狂気や死で人生を閉ざした。しかし、人びとは決して、そ
んな女を許そうとはしなかった。

この映画のヒロイン、エヴァはそうした女たちの中でも
とくに、過酷な人生を生きた。彼女ただ一人の男を愛し
たがために、男たちに弄ばれ、娼婦となり、生み落した
ばかりの嬰兒を捨て、人をあざむき、殺人者たちの手先
となった。そのどれ一つをとっても、十分に、波乱に富
んだ女の物語ができて上るほどだ。

一人の女を押し流してゆく数々の運命。女ゆえの愛。
ヴァレリアン・ボロフチク監督は、まったく思いきった
大胆な手法で、エヴァと男たちとの交情を描き出す。
たわむれの愛、真実の愛、力づくの愛、娼婦としての技
巧的な愛……それらはまるでひそかにのぞき見でもす
るように、時には淫らに、時には美しく展開していく。

しかし、エヴァは、一人の男の腕に辿り着くためだけに、
人生の長い道のりを生き続けた。地の果てまでも、自分
がどんなに傷ついたとしても、どんなに罪を犯したとし
ても……。

ワルシャワ、ウィーン、パリ、ローマ、モンテカルロ…
と、美しい世紀末の都市にも目もくれず、たった一人の
男を熱愛し、純粋な魂を持ち続け、生きぬく女——エヴァ。
彼女には、もはや、愛だけしかみえない。

●正月第2弾<1月中旬>ロードショー

前売券発売中！1100円〈一般1400円/学生1200円の処〉

伊勢丹斜め向い・新宿東映会館2F

新宿東映ホール・1 (351)
3022

連日 11:00 1:05 3:10 5:15 7:20